



秋本議員の再生エネ永田町報告



こんにちは、衆議院議員の秋本真利です。

注目の秋田、千葉銚子沖の事業者公募がスタート

10月26日にスタートした203回臨時国会も最終盤と
なってきました。冒頭の施政方針演説で菅総理が2050
年カーボンニュートラルを表明したことで、大規模集
中電源寄りだった党内の空気も大分変わってきた感が出
てきています。例えば、二階幹事長を座長としたカー
ボンニュートラルを実現するプロジェクトチームが立
ち上がったり、わが党が主導して国会でも「気候非
常事態宣言決議」が採択されたりしました。また、12
月1日には内閣府に河野太郎大臣を座長とした再生エ
ネ規制改革タスクフォースが設けられ、容量市場制度



(洋上風力発電のグラウトモックアップ試験)

の見直しや電源ごとの支障事項について議論が交わされています。私が事務局長を務めている党再生可能エネ
ルギー普及拡大議員連盟もこれまでに4回ほど開催して、各種団体や企業から次期エネ基に対するヒアリング
を重ねて議論を深めています。会期中か遅くとも年内には次期エネルギー基本計画とカーボンニュートラルに
対する提言書を大臣等へ手交したいと思っています。その提言書の内容ですが、2030年の電源構成はもちろん、
2040や50年のターゲットについても記載するつもりでいます。国として姿勢を内外に示す必要性を鑑みれば、
少なくとも2030年より先の中長期の目標を掲げるべきだと思っています。

国会の合間を見計らって、千葉県内で行われたグラウトモックアップ試験（実物大の模型で行う試験）を視
察しました（写真）。これは、洋上風力発電に必要な材料と技術なのですが、残念ながら国産の
材料が存在しないようです。風車メーカーの稼働補償を受けるためには認証材を使うほかなく、
国産のもので認証をとっているものがないのが実情のようでした。風力発電は部品数が多く裾野
の広い産業なのですが、国産材が存在しないのではその効果は半減です。これから導入量を伸ば
していくにあたって、こうした点を改善していかなければなりません。



いよいよ、11月27日から秋田や千葉県銚子沖の洋上風力発電の公募がスタートしました。着床式としては初の公募
となり、そのウィンドファームの規模は国内最大級のものとなっています。残念ながら、国内最後と言ってよかった三
菱重工業が10月末に洋上風力からの撤退を表明しました。FITは電気料金という形で国民の理解の上に成立してい
る制度です。その負担に基づいて得られる果実については、その多くが国民に還元されることが望ましいと思ってい
ます。よって、今回の公募によって選定される事業者においても、国内サプライチェーンの構築などを通じて、国内経済
への波及効果をもたらすことを期待しています。

さて、最後に私事ですが12月中旬に本を出版することになりました。タイトルは『自民党発！「原発のない国へ」宣言』
です。私が再生エネに取り組むようになったきっかけや、2050年カーボンニュートラル実現に向けての方策、再生エネ
各種電源ごとの解説など内容満載です。宜しかったら手に取ってみて下さい。

(自民党再生可能エネルギー普及拡大議員連盟事務局長・秋本真利)